

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成28年8月15日

【四半期会計期間】 第61期第1四半期(自平成28年4月1日至平成28年6月30日)

【会社名】 豊商事株式会社

【英訳名】 YUTAKA SHOJI CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 安成政文

【本店の所在の場所】 東京都中央区日本橋蛸殻町一丁目16番12号

【電話番号】 (03)3667-5211(代表)

【事務連絡者氏名】 管理本部 経理部長 渡辺敏成

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区日本橋蛸殻町一丁目16番12号

【電話番号】 (03)3667-5211(代表)

【事務連絡者氏名】 管理本部 経理部長 渡辺敏成

【縦覧に供する場所】 豊商事株式会社 さいたま支店  
(さいたま市大宮区桜木町一丁目9番4号)  
豊商事株式会社 横浜支店  
(横浜市西区北幸二丁目10番36号)  
豊商事株式会社 名古屋支店  
(名古屋市中村区名駅南一丁目20番14号)  
豊商事株式会社 大阪支店  
(大阪市中央区久太郎町二丁目5番28号)  
豊商事株式会社 福岡支店  
(福岡市博多区博多駅南一丁目8番36号)  
株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第60期 第1四半期 連結累計期間	第61期 第1四半期 連結累計期間	第60期
会計期間	自平成27年4月1日 至平成27年6月30日	自平成28年4月1日 至平成28年6月30日	自平成27年4月1日 至平成28年3月31日
営業収益 (うち受取手数料) (千円)	1,163,319 (1,118,633)	863,424 (920,436)	4,456,517 (4,326,468)
経常利益又は 経常損失( ) (千円)	33,461	138,168	114,365
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益又は 親会社株主に帰属する 四半期純損失( ) (千円)	523,045	118,634	447,140
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	583,310	207,525	349,882
純資産額 (千円)	9,823,112	9,161,094	9,534,659
総資産額 (千円)	45,644,900	42,112,553	42,928,488
1株当たり四半期(当期)純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額( ) (円)	63.66	14.64	54.51
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	21.5	21.8	22.2

- (注)1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。
2. 営業収益には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

#### 2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間の我が国経済は、「マイナス金利付き量的・質的金融緩和」に即した金融政策の継続や、公共投資の進捗などを支えに、穏やかな回復基調ではじまりましたが、6月の英国のEU離脱問題による急速に進んだ円高など不透明な要素が高まりつつあります。

一方、世界経済は、堅調な個人消費による米国経済の回復が継続しているものの、英国のEU離脱問題に伴う先行き不透明感や中国経済の減速により、当面力強さに欠ける状況が続く見込みであります。

証券市場においては、取引所株価指数証拠金取引(くりっく株365)は堅調なNYダウに追随する形で上伸していましたが、4月末の日本銀行金融政策決定会合において追加緩和が見送られたことから急落場面となりました。その後、円安を背景に徐々に水準を戻しましたが、6月に入ると米国の弱い雇用統計からドル安・円高が進み軟調に推移、月末には英国の国民投票でEU離脱派が勝利を収めたことから暴落、一時15,000円を割り込みました。

商品相場においては、原油は米国金融大手・ゴールドマンサックスの強気な原油相場見通しなどが材料視されNY原油が上伸、国内市場も連れ高となりました。その後もカナダの森林火災を背景とした供給懸念や、米国の原油在庫が減少に転じたことなどから概ね堅調な推移となりました。

金はFRB(米連邦準備制度理事会)が追加利上げに対して慎重な姿勢を示していることや、ECB(欧州中央銀行)理事会で政策金利の据え置きが決定したことなどから堅調な推移となりました。修正場面を迎えた後、英国の国民投票でEU離脱派が勝利したことから、再度安全資産である金を買われる動きとなりました。

穀物は主要産地である米国での作付開始にあたり、天候に対する懸念から堅調なスタートとなりました。更に収穫時期を迎えた南半球の減産が伝えられると、コーン、大豆共に続伸場面となりましたが、米国の天候が落ち着いたことや、英国のEU離脱問題の影響で投機筋の手仕舞い売りからシカゴ市場が急落、国内市場も追随する動きとなりました。

為替市場においては、ドル円相場は110円を中心としたレンジで推移していましたが、日本銀行の追加緩和が見送られたことや、米国が追加利上げに対して慎重な姿勢を示したことから徐々に円高が進行しました。6月末には英国の国民投票でEU離脱派が勝利を収め、リスク回避の動きが強まり、瞬間的に99円割れまで急落しましたが、月末にかけてはやや買戻しの動きが強まり、103円台で取引を終えました。

このような環境のもとで、当社グループの当第1四半期連結累計期間の商品先物取引の総売買高は502千枚(前年同期比26.5%増)及び金融商品取引等の総売買高は646千枚(前年同期比24.4%減)となり、受取手数料は920百万円(前年同期比17.7%減)、売買損益は57百万円の損失(前年同期は38百万円の利益)となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績は営業収益863百万円(前年同期比25.8%減)、経常損失138百万円(前年同期は33百万円の経常利益)、親会社株主に帰属する四半期純損失118百万円(前年同期は523百万円の親会社株主に帰属する四半期純利益)となりました。

今後の安定的な収益拡大に向け、商品先物取引、取引所株価指数証拠金取引「ゆたかCFD」及び取引所為替証拠金取引「Yutaka24」を3本柱とし、特に取引所株価指数証拠金取引「ゆたかCFD」等の金融商品取引等は急成長の途にあり、引き続き大きく成長させるよう注力してまいります。また、証券取引の媒介については、本格的な証券業への参入の為の将来の布石として位置付けております。

なお、後記「第4「経理の状況」1「四半期連結財務諸表」注記事項(セグメント情報等)」に掲記したとおり、当社グループの事業セグメントは、主として商品先物取引の受託及び自己売買、並びに金融商品取引等の受託及び自己売買の商品先物取引業等の単一セグメントであり重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

当第1四半期連結累計期間における商品先物取引業等の営業収益は、次のとおりであります。

1) 受取手数料

(単位：千円)

区分	取引名及び市場名	金額	前年同四半期増減比(%)
商品先物取引			
	現物先物取引		
	農産物市場	48,217	110.4
	砂糖市場	13	
	貴金属市場	93,738	56.3
	ゴム市場	31,533	45.9
	石油市場	3,540	49.9
	中京石油市場	138	27.8
	小計	177,183	41.5
	現金決済取引		
	貴金属市場	231,288	112.8
	石油市場	7,530	12.1
	小計	238,818	103.7
	商品先物取引計	416,002	1.0
金融商品取引等			
	取引所株価指数証拠金取引	318,152	30.0
	取引所為替証拠金取引	185,483	22.0
	証券取引	799	86.3
	金融商品取引等計	504,434	27.8
	合計	920,436	17.7

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2) 売買損益

(単位：千円)

区分	取引名及び市場名	金額	前年同四半期増減比(%)
商品先物取引			
	現物先物取引		
	農産物市場	6,226	286.5
	貴金属市場	16,086	
	ゴム市場	1,859	86.1
	石油市場	1,599	
	小計	9,599	
	現金決済取引		
	貴金属市場	15,435	72.7
	石油市場	13,844	
	小計	1,590	96.8
	商品先物取引計	8,009	
金融商品取引等			
	C F D取引		
	取引所株価指数証拠金取引	26,582	
	小計	26,582	
	F X取引		
	取引所為替証拠金取引	1,960	
	市場外為替証拠金取引	21,626	
	小計	23,586	
	金融商品取引等計	50,168	
商品売買損益			
	現物売買取引	663	23.6
	商品売買損益計	663	23.6
合計		57,514	

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3) その他

(単位：千円)

区分	金額	前年同四半期増減比(%)
不動産管理業		100.0
その他	502	17.4
合計	502	92.2

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

当社及び当社の関係会社の商品先物取引業等の売買高に関して当第1四半期連結累計期間中の状況は、次のとおりであります。

売買高

(単位：枚)

区分 取引名及び市場名	委託		自己		合計	
		前年同四半 期増減比 (%)		前年同四半 期増減比 (%)		前年同四半 期増減比 (%)
商品先物取引						
現物先物取引						
農産物市場	32,348	26.7	23,087	36.5	55,435	10.4
貴金属市場	16,608	61.6	27,342	60.4	43,950	27.0
ゴム市場	44,739	51.8	3,376	6.1	48,115	50.1
石油市場	7,817	47.6	1,061	54.7	8,878	48.6
中京石油市場	348	33.5			348	33.5
小計	101,860	42.4	54,866	7.5	156,726	33.7
現金決済先物取引						
貴金属市場	226,269	121.0	86,624	171.4	312,893	132.9
石油市場	28,056	11.8	5,233	182.1	33,289	23.5
小計	254,325	99.5	91,857	172.0	346,182	114.7
商品先物取引計	356,185	17.0	146,723	57.6	502,908	26.5
金融商品取引等						
取引所株価指数証拠金取引	411,130	25.3	1,340	35.4	412,470	25.1
取引所為替証拠金取引等	231,997	23.4	2,442	26.2	234,439	23.1
金融商品取引等計	643,127	24.6	3,782	29.3	646,909	24.4
合計	999,312	13.7	150,505	56.7	1,149,817	8.3

当社及び当社の関係会社の商品先物取引業等に関する売買高のうち、当第1四半期連結累計期間末において反対売買等により決済されていない建玉の状況は、次のとおりであります。

未決済建玉

(単位：枚)

区分 取引名及び市場名	委託		自己		合計	
		前年同四半 期増減比 (%)		前年同四半 期増減比 (%)		前年同四半 期増減比 (%)
商品先物取引						
現物先物取引						
農産物市場	11,950	40.5	2,379	30.7	14,329	20.0
貴金属市場	4,199	57.5	995	50.5	5,194	50.7
ゴム市場	828	55.1	104	46.7	932	54.3
石油市場	3,018	16.4	135	53.6	3,153	19.2
中京石油市場	75	27.1			75	27.1
小計	20,070	16.0	3,613	21.1	23,683	16.8
現金決済先物取引						
貴金属市場	52,167	80.8	8,350	92.4	60,517	82.3
石油市場	5,409	49.8	124	0.0	5,533	49.3
小計	57,576	45.3	8,474	89.8	66,050	49.8
商品先物取引計	77,646	22.2	12,087	33.6	89,733	23.6
金融商品取引等						
取引所株価指数証拠金取引	159,603	20.1	745	8.0	160,348	20.0
取引所為替証拠金取引等	45,153	36.0	71	16.5	45,224	36.0
金融商品取引等計	204,756	24.2	816	8.8	205,572	24.2
合計	282,402	15.4	12,903	29.8	295,305	14.1

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間の資産総額は42,112百万円、負債総額は32,951百万円、純資産は9,161百万円となっております。

当第1四半期連結会計期間の資産総額42,112百万円は、前連結会計年度末42,928百万円に比べて815百万円減少しております。この内訳は、流動資産が859百万円減少し、固定資産が43百万円増加したものであり、主に「その他」が889百万円、「保有有価証券」が829百万円それぞれ増加したものの、「差入保証金」が2,647百万円減少したことによるものであります。なお、「その他」の増加の主な内訳は「委託者先物差金」1,039百万円となっております。

当第1四半期連結会計期間の負債総額32,951百万円は、前連結会計年度末33,393百万円に比べて442百万円減少しております。この内訳は、流動負債が420百万円、固定負債が21百万円それぞれ減少したものであり、主に「預り証拠金代用有価証券」が829百万円、「短期借入金」が500百万円それぞれ増加したものの、「預り証拠金」が1,072百万円、「その他」が636百万円それぞれ減少したことによるものであります。なお、「その他」の減少の主な内訳は「委託者先物差金」638百万円となっております。

当第1四半期連結会計期間の純資産9,161百万円は、前連結会計年度末9,534百万円に比べて373百万円減少しております。この内訳は、主に「株主資本」が284百万円、「その他の包括利益累計額」が88百万円それぞれ減少したことによるものであります。

なお、当第1四半期連結会計期間の自己資本比率は21.8%（前連結会計年度末は22.2%）となっております。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

(単位：株)

種類	発行可能株式総数
普通株式	24,000,000
計	24,000,000

###### 【発行済株式】

(単位：株)

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数 (平成28年6月30日)	提出日現在発行数 (平成28年8月15日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可 金融商品取引業協会名	内容
普通株式	8,897,472	8,897,472	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株 であります。
計	8,897,472	8,897,472		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成28年6月30日		8,897,472		1,722,000		1,104,480

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成28年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 595,500		
完全議決権株式(その他)	普通株式 8,299,900	82,999	
単元未満株式	普通株式 2,072		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	8,897,472		
総株主の議決権		82,999	

- (注)1. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、従業員インセンティブ・プラン「株式給付信託(J-ESOP)」制度の信託財産として、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が保有する当社株式200,000株(議決権2,000個)が含まれております。
2. 「単元未満株式」の欄の普通株式には、当社所有の自己株式9株が含まれております。

【自己株式等】

平成28年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合(%)
(自己保有株式) 豊商事株式会社	東京都中央区日本橋 蛸殻町一丁目16番12号	595,500		595,500	6.69
計		595,500		595,500	6.69

- (注) 資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が所有する当社株式は、上記自己保有株式には含まれておりません。

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づき、「商品先物取引業統一経理基準」(日本商品先物取引協会 平成23年3月2日改正)及び「商品先物取引業における金融商品取引法に基づく開示の内容について」(日本商品先物取引協会 平成28年5月25日改正)に準拠して作成しております。

また、金融商品取引業の固有事項については、「金融商品取引業等に関する内閣府令」(平成19年内閣府令第52号)及び「有価証券関連業経理の統一に関する規則」(日本証券業協会自主規制規則昭和49年11月14日付)に準拠して作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成28年4月1日から平成28年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成28年4月1日から平成28年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、東陽監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	5,506,925	5,690,660
売掛金	12,965	-
委託者未収金	234,389	152,548
トレーディング商品	272,858	247,950
商品	4,411	9,120
保管有価証券	7,461,461	8,290,898
差入保証金	22,728,954	20,080,994
その他	642,276	1,532,267
貸倒引当金	328	273
流動資産合計	36,863,913	36,004,167
<b>固定資産</b>		
有形固定資産	3,255,158	3,240,161
無形固定資産	125,711	119,435
<b>投資その他の資産</b>		
その他	3,222,965	3,226,411
貸倒引当金	539,259	477,622
投資その他の資産合計	2,683,705	2,748,789
固定資産合計	6,064,575	6,108,386
資産合計	42,928,488	42,112,553
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
買掛金	17,672	-
委託者未払金	468,802	593,678
短期借入金	625,000	1,125,000
未払法人税等	36,321	5,092
賞与引当金	90,816	22,217
役員賞与引当金	50,000	-
預り証拠金	7,833,839	6,761,761
預り証拠金代用有価証券	7,461,461	8,290,898
金融商品取引保証金	14,482,366	14,483,891
その他	1,160,731	523,998
流動負債合計	32,227,011	31,806,536
<b>固定負債</b>		
役員退職慰労引当金	184,670	184,670
訴訟損失引当金	17,430	9,830
退職給付に係る負債	695,259	699,310
株式給付引当金	7,941	7,941
その他	108,893	90,547
固定負債合計	1,014,195	992,300
<b>特別法上の準備金</b>		
商品取引責任準備金	141,782	141,782
金融商品取引責任準備金	10,839	10,839
特別法上の準備金合計	152,622	152,622
負債合計	33,393,829	32,951,459

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,722,000	1,722,000
資本剰余金	1,104,480	1,104,480
利益剰余金	7,110,090	6,825,416
自己株式	367,347	367,347
株主資本合計	9,569,222	9,284,549
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	26,115	82,868
為替換算調整勘定	26,995	9,383
退職給付に係る調整累計額	35,443	31,202
その他の包括利益累計額合計	34,563	123,455
純資産合計	9,534,659	9,161,094
負債純資産合計	42,928,488	42,112,553

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
営業収益		
受取手数料	1,118,633	920,436
売買損益	38,288	57,514
その他	6,397	502
営業収益合計	1,163,319	863,424
販売費及び一般管理費	1,143,234	1,055,298
営業利益又は営業損失( )	20,085	191,874
営業外収益		
受取利息	457	396
受取配当金	9,348	11,926
貸倒引当金戻入額	-	41,905
為替差益	2,232	-
その他	7,908	5,506
営業外収益合計	19,947	59,735
営業外費用		
支払利息	4,745	3,717
貸倒引当金繰入額	1,214	-
為替差損	-	1,099
その他	611	1,212
営業外費用合計	6,571	6,029
経常利益又は経常損失( )	33,461	138,168
特別利益		
固定資産売却益	560,770	-
特別利益合計	560,770	-
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失( )	594,232	138,168
法人税等	71,187	19,534
四半期純利益又は四半期純損失( )	523,045	118,634
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失( )	523,045	118,634

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失( )	523,045	118,634
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	48,699	56,752
為替換算調整勘定	9,822	36,379
退職給付に係る調整額	1,743	4,240
その他の包括利益合計	60,265	88,891
四半期包括利益	583,310	207,525
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	583,310	207,525

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

該当事項はありません。

(会計方針の変更等)

当第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)
(会計方針の変更) 当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を当第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得する建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。 なお、当第1四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表への影響額はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

	当第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)
税金費用の計算	税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(財政状態、経営成績又はキャッシュ・フローの状況に関する事項で、当該企業集団の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の判断に影響を与えると認められる重要なもの)

該当事項はありません。

(追加情報)

当第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)
「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当第1四半期連結会計期間から適用しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
減価償却費	36,532千円	31,501千円
のれんの償却額	1,603千円	1,348千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額(注)	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月26日 定時株主総会	普通株式	106,829千円	13.00円	平成27年3月31日	平成27年6月29日	利益剰余金

(注) 連結子会社が保有する自己株式に係る配当金を控除しております。なお、控除前の金額は、107,999千円であります。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額(注)	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月29日 定時株主総会	普通株式	166,039千円	20.00円	平成28年3月31日	平成28年6月30日	利益剰余金

(注) 平成28年6月29日定時株主総会決議による配当金の総額には、資産管理サ - ビス信託銀行株式会社(信託E口)が保有する自社の株式に対する配当金4,000千円が含まれております。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループの事業セグメントは、主として商品先物取引の受託及び自己売買、並びに金融商品取引等の受託及び自己売買の商品先物取引取引業等の単一セグメントであり重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

(金融商品関係)

金融商品は、企業集団の事業の運営において重要なものとなっており、かつ、四半期連結貸借対照表計上額に前連結会計年度の末日と比較して著しい変動が認められますが、当第1四半期連結貸借対照表計上額と時価との差額及び前連結会計年度に係る連結貸借対照表計上額と時価との差額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(有価証券関係)

有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(デリバティブ取引関係)

前連結会計年度(平成28年3月31日)

(単位：千円)

対象物の種類	取引の種類	契約額等		時価	評価損益
			うち1年超		
商品関連 (市場取引)	商品先物取引 (注)2				
	売建	4,942,922		4,846,137	96,784
	買建	4,503,076		4,425,820	77,256
	差引計				19,528
株式関連 (市場取引)	取引所株価指数証拠金取引 (注)3				
	売建	322,600		342,261	19,661
	買建	626,240		923,159	296,919
	差引計				277,257
通貨関連 (市場取引)	取引所為替証拠金取引 (注)3				
	売建				
	買建	117,495		112,722	4,773
	差引計				4,773
通貨関連 (市場取引以外の取引)	為替証拠金取引 (注)4				
	売建	34,102		33,729	373
	買建				
	差引計				373

(注)1. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引はありません。

2. 時価の算定方法 各商品取引所における最終の価格に基づき算定しております。

3. 時価の算定方法 (株)東京金融取引所における最終の価格に基づき算定しております。

4. 時価の算定方法 取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

当第1四半期連結会計期間末(平成28年6月30日)

対象物の種類が商品関連、株式関連及び通貨関連であるデリバティブ取引が、企業集団の事業の運営において重要なものとなっており、かつ、前連結会計年度の末日に比べて著しい変動が認められます。

(単位：千円)

対象物の種類	取引の種類	契約額等		時価	評価損益
			うち1年超		
商品関連 (市場取引)	商品先物取引 (注)2				
	売建	6,083,216		6,052,903	30,312
	買建	5,575,772		5,560,529	15,242
	差引計				15,070
株式関連 (市場取引)	取引所株価指数証拠金取引 (注)3				
	売建	361,713		361,901	187
	買建	614,815		863,059	248,244
	差引計				248,056
通貨関連 (市場取引)	取引所為替証拠金取引 (注)3				
	売建	32,426		32,303	122
	買建				
	差引計				122
通貨関連 (市場取引以外の取引)	為替証拠金取引 (注)4				
	売建	46,046		46,275	228
	買建				
	差引計				228

(注)1. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引はありません。

2. 時価の算定方法 各商品取引所における最終の価格に基づき算定しております。

3. 時価の算定方法 (株)東京金融取引所における最終の価格に基づき算定しております。

4. 時価の算定方法 取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額の算定上の基礎は、次のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額( )	63.66円	14.64円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する 四半期純利益金額又は 親会社株主に帰属する 四半期純損失金額( )	523,045 (千円)	118,634
普通株主に帰属しない金額 (千円)		
普通株式に係る 親会社株主に帰属する四半期純利益金額又は 親会社株主に帰属する四半期純損失金額( )	523,045 (千円)	118,634
普通株式の期中平均株式数 (千株)	8,215	8,101

- (注)1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
 2. 当第1四半期連結累計期間における株主資本において自己株式として計上されている信託に残存する自社の株式は、1株当たり四半期純損失金額の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。1株当たり四半期純損失金額の算定上、控除した当該自己株式の期中平均株式数は200,000株であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年 8 月15日

豊商事株式会社  
取締役会 御中

### 東陽監査法人

指定社員 業務執行社員	公認会計士	恩	田	正	博
指定社員 業務執行社員	公認会計士	原	口	隆	志
指定社員 業務執行社員	公認会計士	猿	渡	裕	子

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている豊商事株式会社の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成28年4月1日から平成28年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成28年4月1日から平成28年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、豊商事株式会社及び連結子会社の平成28年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。